

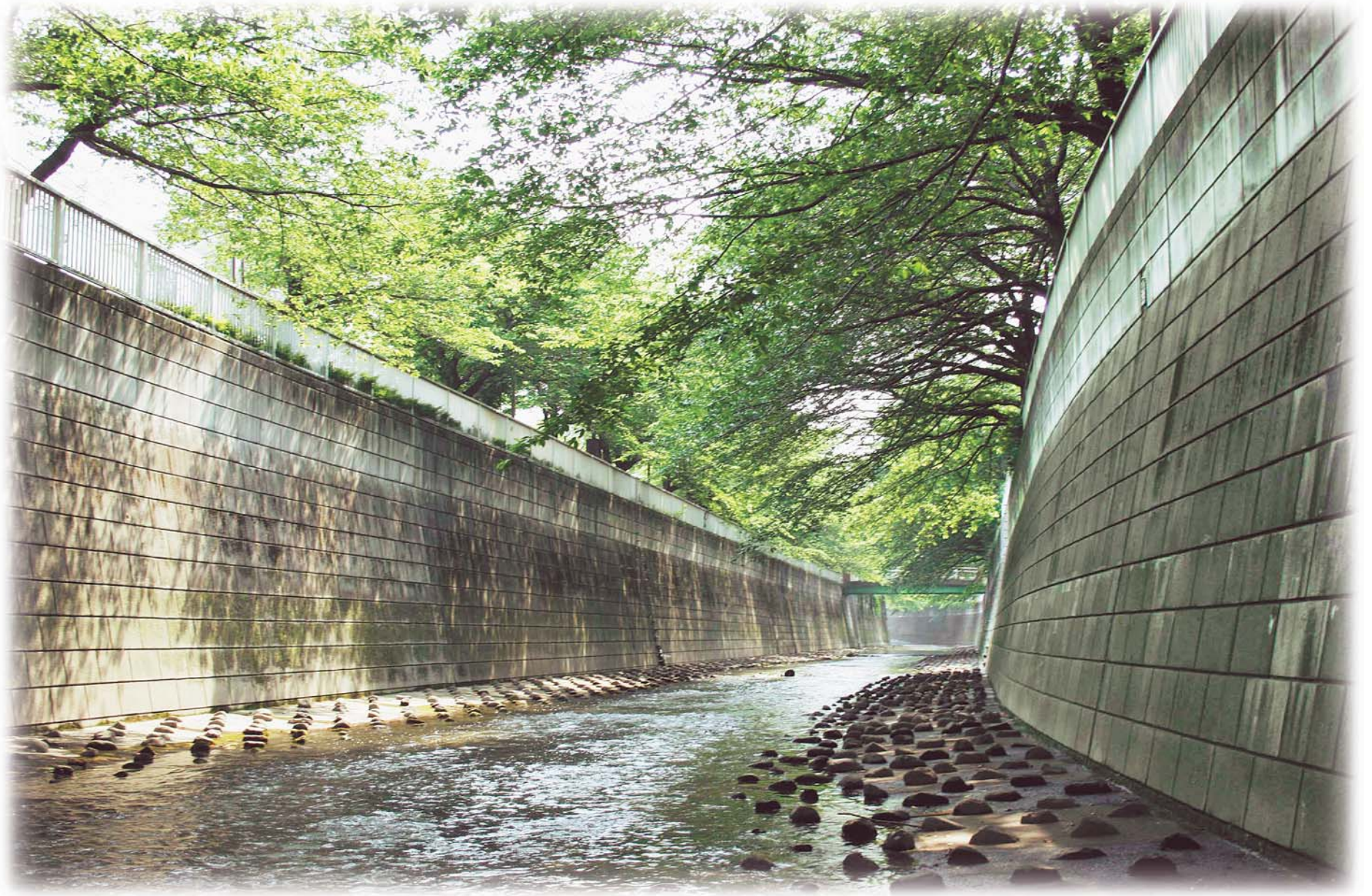
夏休み
特集新宿 **神田川** の世界へ

神田川の始まり（水源）は三鷹市の井の頭池。新宿区など東京の中心を流れて、隅田川に合流します。神田川は、いろいろな生き物がすむ水とみどりの空間であるだけでなく、歴史と文化を伝える大切な役割も担っています。

8月は、神田川で夏を楽しむ催しもあります。家族で、友だちと、出掛けてみませんか。

問合せ みどり公園課みどりの係（本庁舎7階） ☎（5273）3924へ。

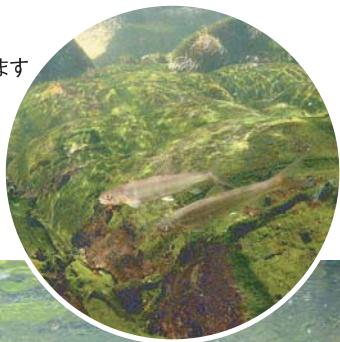
**神田川が
身近になる
催しも企画！**



アユが戻った神田川

昭和40年代の神田川は排水などで汚染され、生き物がすめませんでした。下水道の整備や汚水処理の発達で、神田川の水をきれいにする努力が重ねられた結果、約20年前（平成4年）にはアユが戻ってきたことを確認。今では、およそ30種類の魚と24種類の植物が生息しています。

高戸橋付近ではアユの姿も見られます



水がきれいになって水草も生えるように

神田川と新宿の伝統産業「染色」

江戸時代、神田川の上流は「神田上水」と呼ばれ、江戸中期に完成した玉川上水とともに江戸城や江戸のまちに飲み水を送っていました。明治時代に入り、近代的な水道ができると、神田上水はその役目を終えました。

その後、きれいな水をたくさん使う染め物業者の人たちが、神田や浅草などから水がきれいな落合・戸塚地域に集まってきました。昭和30年ころまでは、染めた着物の生地を神田川で洗う様子を見ることができました。

